

# 弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

社会福祉学部・社会福祉学科  
駒ヶ嶺 裕子

作成日 2024年1月31日

## 1. 教育の責務

教育の方針としては、社会福祉を理論的・体系的にとらえることで人間や社会への深い認識や、広い視野を有することを目的としている。この目的を踏まえて、支援を必要とする方々へのアプローチ方法などの理論と実践活動としての政策、社会資源の開発、権利擁護、専門職の連携などを修得できるように指導する。

1. シラバスを作成し、学生に授業の概要、主旨、到達目標を明示している。
2. 学生が主体的に学修するような工夫をしている。

### 2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
医療ソーシャルワーク論	2年	講義	前期	MSWの役割と保健医療のかかわり
精神保健福祉援助技術各論A	3年	講義	前期	当事者理解とPSWの役割
精神保健福祉援助技術各論B	3年	講義	後期	様々な対象者への支援方法論
保健医療論	2年	講義	前期	保健医療分野の制度、サービス
精神保健福祉制度論	3年	講義	前期	メンタルヘルスに関連する法体系
精神保健学A	2年	講義	前期	こころの健康に関する学問や活動
ソーシャルワーク論ⅡA	3年	講義	前期	SWの理論、体系、方法論
ソーシャルワーク論ⅡB	3年	講義	後期	対象によるSWの支援方法
ソーシャルワーク演習Ⅰ	1年	演習	後期	事例ロールプレイから方法を学ぶ
精神保健福祉援助演習Ⅰ	3年	演習	後期	面接技術、支援展開と方法
社会福祉実習基礎論	2年	講義	前期	社会福祉実習の意義、理解を学ぶ
社会福祉実習指導Ⅰ	2年	実習	前期	実習Ⅰの事前学修～報告作成指導
社会福祉実習指導Ⅱ	3年	実習	通年	実習Ⅱの事前学修～報告作成指導
社会福祉実習Ⅰ	2年	実習	前期	実習中の指導
社会福祉実習Ⅱ	3年	実習	通年	実習中の指導

## 2. 教育の理念

1. 「畏神愛人」をスクールモットーとして人間性豊かな人格の完成を目指し、福祉に関する高度な専門性を意欲的に追求できるようにする。
2. 生活課題を有する人や様々な課題を抱える地域を理解し、社会福祉及び関連領域の知識や技能を総合的に活用しつつ他者とも協力してその問題を解決していくための資質や能力を体得できる。
3. 支援を必要とする人の生活やこころを深く理解するとともに、福祉政策や制度、インフォーマルケアを含む社会システムとの連携など、具体的支援のための方法を熟知できるようにする。
4. 社会福祉学における基本的知識、教養的知識に始まり、年次推移に従い社会福祉の専門的知識が醸成されるように構成している。

## 3. 教育の方法

1. 授業では、学生主体を意識しながら学生が〈考える〉質疑応答タイムを設けている。
2. 前期・後期初回の授業のオリエンテーションにおいて、授業の趣旨や展開過程、レポートや授業評価などについて説明し、質問があれば受け付けている。
3. 授業開始、終了時間を厳守している。
4. 講義中において、授業に関係する以外のスマートフォン操作や、私語をしないように周知している。
5. 授業資料を準備する際は、最新のデータになっているか、資料は分かりやすいかなどを確認し、加筆、修正して更新している。
6. 授業資料は、教科書、授業に関連したDVD、厚生労働省のグラフデータ、現場でのSWの事例を混ぜながらわかりやすさを提供している。
7. 授業資料は、学生の理解を深めるために教科書にない資料を補足的に使用するなどして授業理解に工夫している。
8. 科目によっては、聴覚を主とした説明だけでは伝わらない内容があるため、視覚的な教材(DVDなど)や、パワーポイントを利用し理解を深めている。
9. ソーシャルワークの講義授業において、学生が暮らす地域のおすすめ場所を紹介する。その後、地域アセスメントから課題点、解決方法を学生自身が考えてまとめて発表し、理解を深められるよう工夫している。
10. 授業の最後には、質問の時間を設けるとともに、終了後も質問を受け付ける旨を伝えている。

#### 4. 教育の成果

授業評価アンケートの結果から、担当する教科（講義科目）については、すべての科目の平均値が3以上という結果であった。特に、「課題・発表・レポート・試験準備などに取り組んでいる」、「教員は熱意をもって授業に臨んでいる」、「学生の質問や意見に適切に対応している」が共通して高い数値だった。これは、どの授業においても、小テストやレポートの事前説明や復習、授業内容に関する質問時間を設けたり、または授業終了後に質問等を受け付けたりすることで、学生の理解を深めるように心掛けた結果と考えられる。また、授業評価の結果をもとに改善した項目もある。その改善方法は、授業開始時にシラバスとテキストを照らし合わせながら授業の流れを確認し、重要なポイントを伝えた。そして授業の最後には、再度、授業内容を繰り返して伝えるという復習を取り入れた結果、「シラバスに記載された到達目標を達成できていると思う」の評価値を改善することができたと考えられる。これについては、学生の理解力向上にもつながると考えるため、今後も継続していきたい。

#### 5. 教育の改善

##### 1. 授業方針の理解について

初回の授業のオリエンテーションにおいて、シラバスに記されている到達目標や評価方法を読みあげることや、Teams等を活用して周知する。当日欠席した学生については、第2回授業前までにTeams等を活用して連絡をすることや、呼び出すなどで個別に対応している。

##### 2. 講義〈予習・復習について〉

予習方法については、授業の最後に次週の授業範囲を伝えて事前に読むなどの予習を促していた。復習方法については、2回実施される小テスト前に、授業の振り返りをしていった。しかし、新たに小テスト方式以外の方法（レポートなど）で知識定着の確認もしていきたい。また、学生の努力ばかりではなく、復習意欲を沸かせるきっかけ作りも取り入れていきたい。例えば、コミュニケーションペーパーなどを利用することや、学生生活に身近な問題を授業テーマとするなどの工夫から、学生の気づきを発見して解決方法を考えるなどの一緒に考えるという方法も導入していきたい。

## 6. 教育の目標

2019年から現在まで、社会福祉士国家試験対策委員を担当させていただいた。その結果、本学生の合格率アップと、全国平均を上回ることができた。これは、受験に向けた学習指導方法を構造化したことや、学生個々に合わせた指導方法が影響したものと考えられる。実際には、学生個々の効果的な勉強方法の指導や管理、進捗状況の把握と、模擬試験結果からの苦手問題の復習方法の指導等である。また、毎年、合格発表後に受験生アンケートや、受験体験談を聞くなどして対策方法をバージョンアップするための参考としている。今後は、この方法を授業にも活用して学生の理解を深めたいと考えている。

長期目標：わかりやすく、理解を深めることができる授業を展開する。

短期目標：①予習、復習を学生が主体的にできるような授業の工夫をする。

②勉強方法について相談を受けつけて、学生個々の学習意欲につなげる。

③社会福祉士国家試験結果の合格率6割以上を継続したい。

### 【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 定期試験結果、および中間小テスト結果
4. 学生提出の課題レポート
5. ルーブリック(演習)
6. 授業改善書